

第2学年2組 道徳指導案

- 1 主題名 信じる心〔内容項目Dー(22)：よりよく生きる〕 (1時間完了)
〈資料名 「ネパールのビール」 出典：自分を考える(あかつき)〉

2 ねらい

遠い町までビールを買いに行かせたチェトリ君が、3日間帰ってこないことで、お金を持ち逃げしたのではないかと疑うが、無事に帰って来たチェトリ君の純粋な心に触れ、自分の弱い心を反省し、人を信じることの大切さに気づく主人公の心の動きを考えることで、人を信頼し、互いに尊重し合って生きていこうという道徳的心情を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

中学2年生という今、生徒らは人を信じたいという純粋な気持ちと、斜に構えて人を疑ってしまう気持ちの両面を兼ね備えている。裏切られたときの喪失感を得たくないために最初から信じなければよいと考える生徒もいる。しかし、人を疑って生きることは悲しいことであり、いつも不安を抱えて疑心暗鬼の中で生活することは精神衛生上もよいことではない。また、頭の中では「こうすべきだ」「こうあるべきだ」ということを分かっていても実行に移せない生徒もいる。

そこで、本時を通し、そんな自分自身の弱さを認めつつも、人を信じることの大切さを知り、後の人生をよりよいものとして過ごしていけるようになってほしい。今回の資料は、チェトリ君を信じたいと思いつつも信じ切れない主人公の心を追うことで、人を疑うことの醜さと、人を信じることのすばらしさを学ぶ。また、チェトリ君の、主人公を喜ばせようという思いから険しい山をいくつも超えてまでして、ビールを買い求めた純粋な気持ちを知ることで、世の中にはチェトリ君のように心の美しい人がいるのだということに気づいてほしい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級は、男女分け隔てなく話ができる生徒がいる一方で、学級内で一言も話をしない生徒もいる。そうになってしまう一因として、学級全員で仲良くしたい、仲良くしなければならぬという心をもつべきだということは分かっていても、自分の心に正直に生きることを恥ずかしいと思う気持ちや、弱い自分に流されてしまうといったことが考えられる。そのため、みんなでレクリエーションをやろうとしても参加せず傍観する生徒がいたり、組み合わせに反発してみたりなどといった行動が見られる。また、誠実に生きたいと願っている生徒の中にも、他の生徒が自分勝手に過ごしている姿を見て、自分も誠実な行動をとることができなくなるという生徒も多い。

本時を通して、チェトリ君を疑い、信じようとしなかった主人公が、チェトリ君の誠実な生き方にふれ、人を信じることの大切さを感じるまでの心のゆれを自分自身に重ね合わせることで、誠実な生き方や気高く生きようとする心情を高め、人を最後まで信じぬこうとする気持ちを育てていきたい。

(2) 抽出生徒について

①抽出生徒Aについて

Aは明るい性格で、係の仕事に対しても誠実に取り組んでいる。また、友人に対して優しく接することができ、人が困っているとよく手助けをしている。一方で、自分に自信がなく、授業では積極的に発言することがなく、道徳の時間、ワークシートには自分の誠実な意見を記入しているものの、挙手をすることは少ない。本時では、帰ってこないチェトリ君を信じたいという主人公の気持ちに共感するであろう。Aの「人を信じたい」「信じるべきだ」という考えを意図的に指名することで、Aのよさを学級に広めたい。本時を通して、チェトリ君を疑ってしまった主人公の気持ちを考えたことで、級友は人を信じることの大切さを実感し、Aの意見に賛同するだろう。こうした活動を通して、Aが自分に自信をもち、今後の学級生活の中でも、人と助け合い協力して、よりよい関係をつくっていく姿を期待したい。

②抽出生徒Bについて

Bは学習に意欲的で前向きに取り組むことができる。一方で、人の善意を疑ったり、他人に対して批判的

な言動をしたりしてしまうことがある。こうした性格のため、級友たちをしばしば不快にさせ、学級の雰囲気悪くしてしまうことがある。本資料を読み、チェトリ君を疑う主人公の心情に共感することが予想される。周りに流されてしまう気持ちを受け止めつつ、Bが「お金を持ち逃げされて悔しい」「お前がビールを飲んだのではないか」というような発言をした際には、「本当にそうであろうか」と問いかけることで、チェトリ君を疑いつつも心配している主人公の思いを考えさせたい。本時を通して、チェトリ君を疑いつつも、最後はチェトリ君の心の清さにふれた主人公の気持ちを感じることで、自分自身も周りの人間に対して信頼をもてる関係を築いていってほしい。また、自分自身の言動を振り返るよい機会としてほしい。

5 資料について

(1) 資料の概要

ネパールの山岳地帯に取材に訪れた主人公が持ってくるのを諦めたビールを飲みたいという気持ちから、村に住む少年チェトリ君に大金を渡してビールを遠い町まで買いに行かせる。ところが彼は一向に戻ってこない。事故にあったのではないかと心配する反面、「金を持って逃げたに違いない」という村人の言葉に心が揺れる主人公。「逃げた」という周囲の言葉に感わされ彼を信じ切れない主人公の弱さと、約束を果たそうと命がけで戻ってくる彼。そんな彼が戻ってきたのは、3日目の深夜。山を4つも越えてビールを買ってきたという。ベソをかいてつり銭をさし出した彼の肩を抱き、主人公は疑ったことを反省し涙した。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

チェトリ君にビールを買いに行かせた主人公の心の弱さに気づかせるために、チェトリ君の「ビールを買ってきてあげる」という申し出に対し、主人公がどう思ったかを発表させる。買いに行かせたことに対して、批判する意見と、弁護する意見が出るだろう。「いけない」と思いつつも「ビールを飲みたい」という欲求に負けてしまった心に注目させ、人間には弱さがあることを弁護側の意見で認めつつ、批判的な意見に対してはチェトリ君の置かれた現状やチャリコットまでの道のりを考えさせたり、実際にビール瓶の入ったバッグを持たせたりすることで、強い気持ちをもつことの大切さにも気づかせる。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

基本発問2で「歯ざしりするほど後悔したのはなぜか」と考えさせる。その際に、後悔しつつも、チェトリ君を信じる心をもっているというAの考えを教師が意図的に指名して発言させたり、Bのチェトリ君を疑っている気持ちを焦点化できるよう補助発問をしたりすることで考えを深めさせ、話し合いの活性化を図る。

中心発問「あなたが主人公なら、チェトリ君を抱きしめながら、心の中でチェトリ君に何と話しかけるだろう。」をなげかけ、チェトリ君が主人公のために、4つも山を越えたところまで行ってビールを買ってきたことを知り主人公が涙する場面の気持ちを、主人公になったつもりで考えることによって、チェトリ君を疑ってしまったことに対する謝罪や反省の思いを深く考えさせる。自分の考えをワークシートに書かせ、机間指導で朱書きを入れることで考えに自信をもったり、意図的に指名することで、お互いの意見について考えを深めたりできるようにする。

6 板書計画

「ネパールのビール」  - ネパール ・貧しい ・発展途上 ・高い山 ・不便な生活 ・高地	一 「ビールを買ってきてあげる」とチェトリ君が言った時、私はどう思っただろう。 ・ビールが飲みたい。 ・お願いしよう。 ・いい子だな。 ・遠いし危険。 ・大変。 ・頼んでいいかな。	二 歯ざしりするほど後悔したのはなぜだろう。 ・頼まなければよかった。 ・チェトリ君が死んでいたらどうしよう。 ・事故にあっていたらどうしよう。 ・チェトリ君を犯罪者にしてしまった。	三 あなたが主人公なら、チェトリ君を抱きしめながら、心の中でチェトリ君に何と話しかけるのだろう。 ・無事でよかった。 ・少しでも疑ってごめん。 ・信じられなかった自分が恥ずかしい。
--	--	---	---

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5	ネパールについて知っていることを発表しよう。 <pre> graph TD A[ネパールについて知っていることを発表しよう。] --> B[地震があった] A --> C[ヒマラヤ山脈 エベレスト] A --> D[貧しい国] </pre> ○資料前半の範読を聞く。 「ビールを買ってきてあげる」とチェトリ君が言った時、私はどう思っただろう。	※ネパールという国の地理や地図、地形等を確認したり写真を提示したりすることによってネパールについて知り、興味をもつことができるようにする。 ※資料が長いので、前後半にわけることで、生徒が話の内容を理解しやすいようにする。
10	○話し合う。 <pre> graph TD Root[話し合う] --> Left[〈弁護〉] Root --> Right[〈批判〉] subgraph LeftBox [〈弁護〉] L1[えっ！本当に？ありがたいけど、いいのかな。] L2[ビールが飲みたいからお願いします。] L3[チェトリ君から、「行く」と言い出したから、ここはお言葉に甘えてしまおう。] L4[なんていい子なのだろう。この子なら信頼できそうだしいいかな。 (2)] end subgraph RightBox [〈批判〉] R1[遠いし危ないから、子ども一人では行かせられない。] R2[ここまで行き来するのは大変だから、とてもお願いできない。 (1)] R3[チャリコットは、遠すぎる。出発の時に諦めたからいいよ。] R4[自分の勝手な願望で、こんな子どもに無理をさせていいのか。何かあったらどうしよう。] end LeftBox <--> RightBox </pre>	※葛藤しながらも、最終的にはビールを飲みたいという誘惑に負けてしまった主人公の弱さに注目させる。 ※①のような意見が出たときには、実際にビール4本分の重さや、チャリコットまでの距離を地図で確認することで、主人公がチェトリ君に頼んだことは、とても危険なことだと気づかせるようにする。(①C：気づかせる) ※ビールを買うお金はネパールの人にとっては大金であることを伝え、主人公がチェトリ君を信頼していたことを確認する。 ☆主人公の心のゆれを考えることができたか。 (発言、ワークシート)
20	○資料後半の範読を聞く。 歯ざしりするほど後悔したのはなぜだろう。 ○話し合う。 <pre> graph TD Root[話し合う] --> L[チェトリ君にお金を持ち逃げされて悔しかったから。] Root --> M[こんないい子 (チェトリ君) の一生を狂わせてしまったから。 (3)] Root --> R[事故にあって彼が死んでしまったらどうしようと思心配になったから。] </pre>	※「なぜ、こんな遠いところまでビールを買いに行こうと言いだしたのか」と問いかけることで、チェトリ君の人の役に立ちたい、人を喜ばせたいという気持ちを引き出す。(②C：気づかせる) ※③のような意見が出たら「どうして一生が狂ったのか」と補助発問をすることで、お金を渡したことにより誠実に生きてきたチェトリ君を犯罪者にしてしまったと後悔していることに注目させる。(③C：焦点化する)

